



森下 <sup>るな</sup> 月菜さん

●石塚小学校 6年

将来の夢

私の将来の夢は保育士です。保育士になりたいと思った理由は2つあります。1つ目は小さい子の面どうをみながら一緒に遊ぶことが好きだからです。今も最上級生として下級生を助けたり、一緒に遊んだりしています。2つ目は、保育園で出会った先生がとても優しく、その先生のようにになりたいと思ったからです。保育士になって、子どもたちに遊ぶ楽しさをたくさん伝えて、子どもたちを笑顔いっぱいにしたいです。



佐野ブランドキャラクター  
さのまる

市長からの  
メッセージ



今年、梅雨に入っても雨量が少なく水不足が心配されておりますが、この後、稲作をはじめ農作物への影響など、皆さんの生活への影響がないことを願っております。

さて、先月5日には佐野市消防操法大会が田沼グリーンスポーツで開催されました。各分団の精鋭たちが一糸乱れぬチームワークで日頃の練習の成果を披露してくれました。今年も県大会が開催されます。優勝したチームには本市の代表として頑張っていたと思います。

また、先月16日には文化会館にて、スポーツジャーナリストの二宮清純氏を講師に迎え「スポーツ立市講演会」が開催されました。市民団体や企業などの協賛・協力により官民協働での講演会となり、1600人を超える来場者があり、スポーツ界の裏話やスポーツによるまちづくりについて、皆さん熱心に耳を傾けておりました。今後も「スポーツ立市」の推進に向け、事業展開を図ってまいります。

さて、いよいよ「佐野インランドポート」が開設に向け動き出しました。詳細は特集記事にありますが、本市が持つ高速交通の要衝としての利点を活用し、国際貨物の集積拠点として「内陸の港」インランドポート」の整備が始まります。国が策定した「首都圏広域地方計画」の中にもこのインランドポートが盛り込まれたほか、北関東自動車道の出流原PAのスマートインターチェンジも国の調査箇所として決定されました。今後、佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の大きな柱としての産業振興や地域振興に向け、出流原PA周辺総合物流開発構想の着実な推進を図ってまいります。

7月は大雨による土砂崩れや河川の氾濫、大水、ゲリラ豪雨なども心配されます。市民の皆さんには備蓄や避難場所の確認など、普段からの備えを欠かさないようお願いいたします。

岡部正英

今回の表紙 「米作りからの地酒づくり」 秋山地区



佐野市の中山間地域、秋山地区では地元の皆さんによる「あきやま有機農村未来塾」が地域おこしの活動をしています。6月11日には「(酒)米の田植え」が行われ、未来塾の皆さんの手ほどきのもと、横浜市や世田谷区など各地から集まった人々が1反7畝の田に米を植えていきました。

林 一義さん  
(小中町)



○プロフィール  
佐野市建設業協会会長  
林土木㈱代表取締役  
【協会の概要】  
昭和29年発足、  
会員は市内建設業者33社

キラリ★  
話題の「ひと」

建設業としての役割

今年4月に発生した熊本地震。皆さんの記憶に新しいかと思えます。

大きな土砂崩れや橋やトンネルの崩落、道路の寸断…。それぞれの現場で、数多くの重機が復旧作業をしている様子が報道されていました。

もし佐野市で同じような災害が起きたらどうなってしまうのか…。

そこで、佐野市や佐野警察署と「災害時における応急復旧対策業務等の実施に関する協定書」を結ぶ佐野市建設業協会の林会長にお話を伺いました。

●佐野市とはどのような協定を結んでいらっしゃるのですか？

東日本大震災が発生した平成23年7月に結んでいます。市が管理する公共施設(道路・橋・建物など)の機能の確保および回復に関する業務や、市民の生命財産を守る人命救助、障害物の除去などを、市内を4つの地域に分け、それぞれ会員の担当地域を決め迅速に対応できるようにしています。

●佐野警察署との協定書はどのようなものなのでしょうか？

東日本大震災のときに停電により信号機が機能しなくなり、警察官が24時間体制で交差点の交通整理をしています。

した。そのとき、市内の建設会社が所有する発電機で信号機の機能を回復させたことがきっかけとなり、主に交通信号機の応急復旧対策業務に対応する協定を平成26年8月に結びました。

●これから起きうる震災への準備を含め、建設業協会さんの今後の抱負をお聞かせください。

建設業というのは道路や橋を造るだけでなく、除雪作業や災害対策を担い地域の皆さんの安心・安全を守っています。これからも社会に貢献するという基本的な建設業の役割を果たしながら、各種団体や行政と連携し、災害に強いまちづくりに協力していきたいと思っております。

建設業協会では、災害に備え、伝達訓練(連絡網の確認等)、会員一人一人においては所有する重機、発電機の点検を行っているとのことでした。

林会長と佐野市建設業協会がこれからも佐野市の基盤整理、安全確保、地域経済の活性化に向けて活躍されることを願っております。

(市民記者 中里聖子)

佐野市  
ばんてい

経済観念の無い人を  
テポツケナシという

世間にはお金を上手じょうずに使い、やりくりのてぎわのよい人、また、労力や時間などを無駄なく使う人がいます。このような人をシンシヨモチガエーといいます。これとは対照的に、家計をうまくやりくりすることができない人、そればかりか金づかいが荒く無駄づかいの多い人がいます。このような人をテポツケナシとかテポツケネー人などといいます。

「今月の小づかいは、いつもより余分にやったのに、ハー(もう)使っちゃタンだつて？アレバアリマチ(あればあるだけ)みんな使っちゃンだから。この子つたら、まあ、なんてテポツケナシなんダンベー」

テポツケナシは、「手持無てもちなし」が変化したものです。するところがなくて退屈である、手があいて間まがもてないの意でしたが、経済観念のない人、要領がわるく、金銭的なやりくりが下手へたな人を、テポツケナシというようになりました。さらに意味が変化して、ぼんやりしていて気がきかない人も、テポツケナシというようになりました。一方、金銭や物を有効に使うとせず、無駄づかいする人を、ツカイッポケともいいます。

「あの男はツカイッポケだから、金かねなんか貯たまんネーよ」  
ツカイッポケは「使い惚ぼける」が変化したもので、無駄づかいばかりする、わけもなく浪費ろうひするがもとの意です。テポツケナシもツカイッポケも、年齢に関係なく多くの人が今なお日常的に使っています。(市民記者 森下喜二)

